

小学部第1～3学年 体育学習指導案

日 時：令和3年9月1日（水）
2校時（10：00～10：45）
場 所：プール（小学部1～3年男子12名）
指導者：高橋 佑果（T1）、澁谷まり子（T2）、他8名

1 単元名「プールでいろいろな運動をしよう」

2 単元設定の理由

(1) 児童観

本単元は、小学部1年生5名、2年生4名、3年生3名の計12名で取り組んでいる。足元を見るのが苦手なため転びやすい児童や、運動不足ジャンプをしたり、スヌーズ平均台を渡ったりすることができない児童、音に敏感な児童など、実態は様々である。同じ学習内容を繰り返すことで、見通しをもって活動に取り組んだり、教師や友達の様子を見て体を動かそうとしたりする姿が増えてきている。

児童は、これまでの体育の学習の中で、サーキット運動に取り組んできている。ミニハードルや滑り台、トンネル、平均台などの遊具を設置することで、自分から遊具に向かって動き出したり、教師の促しに応じて移動することで、徐々に自分から動き出したりすることが増えてきている。

プール学習については、水面をたたく水しぶきを楽しんだり、自由に水中を歩くことを楽しんだりなど、水に入ること自体は好きな児童がほとんどである。一方で、水中独特の浮遊感や、下期せり筋木がわかることが苦手で児童もいる。また、水中の活動へ教師の手を引いて誘ったり、促したりすると体がこぼれてしまう児童もいる。

(2) 単元観

特別支援学校学習指導要領解説では、水泳運動系の領域として、1段階を「水遊び」、2段階及び3段階を「水の中の運動」としている。どちらの領域でも、水の特性浮力・水圧・抗力・揚力などを生かし、水中を動き回ったり、滑ったり、浮いたりする心地よさを楽しむことができる単元である。また、動きによって変化する水からの抵抗的な刺激は、児童の興味を引きつけ、活動の楽しさを感じやすい単元でもある。

特に、陸上では感じることでできない浮力については、ワニ歩きや伏し泳ぎをする際に、体で感じると同時に、ボールを扱う内容を通して、物が水に浮くということを目で見て学ぶ機会とすることもできる。また、滑り台やフラフープなどの遊具を使った水中サーキットは、児童が楽しみながら水に慣れ親しむことができる内容である。自分から、自然に水中サーキットを楽しむことで、水への恐怖や苦手感が軽減できると考えた。

(3) 指導観

まず、水泳の指導においては、児童の身体的健康や体調の把握、安全確保を十分に図ることが最も重要である。そのため、活動の途中に休憩時間を設けたり、内容によっては2グループに分けたりなど、確実に準備ができるようにする。

その上で、児童の主体的な姿を引き出すよう、次の3点に留意しながら指導にあたってきたい。

まず、児童が見通しをもって学習することができるよう、導入で学習内容を視覚的に示し、確認をしながら授業を進めていく。また、取り組む学習内容を一定期間、同じになるよう設定し、繰り返し学習することで見通しをもつことができるようにしていきたい。

2点目は、水中での活動時間が十分に確保できるように、着替えからラジコ体操までは各教室で行い、プールでは水中での活動に集中できるようにする。また、2グループに分かれて活動する際の移動時間を短縮できるように、教員間で共通理解し、効率よく移動できるようにしていきたい。

3点目は、児童が「やりたい」と思う遊具の選定と配置を工夫し、児童が一人で次の遊具に向かったり、実態に応じて好きな遊具で一定時間遊んだりする姿を期待する。設置する遊具は、これまでのサーキット運動に取り組んだことのある滑り台やフラフープ、ボールなどを用意し、児童が自信をもって活動できるようにしていきたい。

3 単元の目標（年間指導計画より）

- (1) 知識及び技能
 - ・水に慣れ、水中で歩く、走る、しゃがむ、深くなどの運動（水遊び）をすることができる。
- (2) 思考力・判断力・表現力等
 - ・友達や教師、遊具などの環境に気づき、部分的にまねたり自分のやり方で取り組んだりしている。
- (3) 主体的に学習に取り組む態度
 - ・簡単なまきまきを守りながら、水の中での基本的な運動（水遊び）に自分から取り組もうとしている。

4 単元の評価規準

	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学習に取り組む態度
①水をすくって自分の体に掛けた後、教師と掛け合ったりすることができると。	①教師や友達の様子を見て、部分的にまねたり、自分のやり方で取り組んだりしている。	①プールの運動に進んで取り組もうとする。	
②水中を歩いたり走ったり、動物歩き（ワニ・カニ）をすることができる。	②サーキットで、滑り台やボール、フラフープに気づき、次の遊具に自分から向かうことができる。	②プールの約束や順番を守ろうとする。	
③浮いているボールやダイブボールを探し、かごに入れることができる。			
④補助具や教師につかまらずに、浮力を楽しむことができる。			

5 題材計画と評価の計画

次	日時	主な学習活動	知・技	思・判・表	主体的
一	7月 7日(水)	水慣れ、バグ足、歩く、走る、カニ歩き、ワニ歩き、ボール拾い、水中サーキット	①		②
	7月 9日(金)		②	①	
	7月 16日(金)		③		①
二	8月 18日(水)	水慣れ、歩く、走る、カニ歩き、ワニ歩き、水中サーキット、大プール遊び	①	②	
	8月 25日(水)		④		②
	8月 27日(金)		②	①	
	9月 1日(水)		②	②	①
	※本時		④		①
	9月 3日(金)		②	①	
	9月 8日(水)		②	①	
	9月 10日(金)		④	②	②

6 本時案（第二次 第4時）

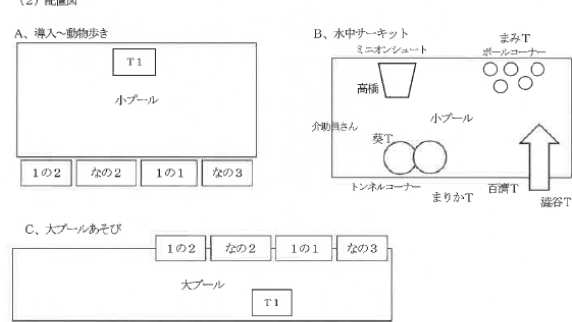
(1) 本時の目標

- ア：水中を歩いたり走ったり、動物歩き（ワニ・カニ）をすることができる。
- イ：サーキットで、滑り台やボール、フラフープに気づき、次の遊具に自分から向かうことができる。
- ウ：プールでの運動に進んで取り組もうとする。

(2) 本時の展開

学習活動	全体への指導支援及び配慮事項	対象児		
		A	B	C
1挨拶・予定確認（2分）	・学習に見通しがあるよう、愛意的に示した予定表と約束を確認する。 ・各Tは、T1に注目するよう児童に声掛けをしたり、ジュエチャーを交えたりしながら話を聞く。	・T1に注目するよう隣で声掛けをする。	・T1に注目できるよう、担任は隣れる。	
2シャワー（5分）	・シャワーは、「女の3→1の1→女の2→1の2」の順番で浴びる。 ・シャワーが終わった児童から小グループサイドへ移動する。	・転倒することがないよう教師と手をつないで移動する。		
3水掛け（5分）	・水が張れることが苦手な児童もいるため、教師と一緒に楽しい雰囲気の中で活動する。 ・自分から水を掛けることができた場面をたくさん称賛し、意欲を高める。	・すくう動作、掛ける動作が分かりやすいよう、教師が隣で手本を示す。		・水慣れに取り組みやすいよう、教師が隣で「はしゃぎ」と音声を付けながら見本を示す。
4歩く・走る（3分）	・歩くときは「1,2,1,2」と早いペースで数を数えたり、教師が近くで手本を示したりする。	・歩く、走るの速いのが分かりやすいよう、教師が児童の前で手本を示す。		・友達の様子が見えやすいよう教師は後方から歩くようにする。
5動物歩き（カニ・ワニ）（7分）	・2グループに分けて活動する。 ・効率よく活動できるように、次のグループはスタート位置で待機する。 ・在復で同じ動物歩きを行う。 ・動物がイメージできるよう、イラストカードで何の動物かを確認する。 ・「肩までしゃがむ」、「手は床につく」、「足はまっすぐ」などポイントを明確に伝えながら、T1が手本を示す。	・進行方向が分かりやすいよう、教師が指さして示す。 ・ワニ歩きでは、足を伸ばす感覚を掴みやすいよう、膝や股関節を教師が支える。	・教師が「肩まで」、「横」など大きめに目の前でモデルをする。 ・「口を閉じる」を目的の前で大きめにモデルをする。（ワニ歩き） ・どちらも即時評価で意欲を高める。	・教師が「肩まで水に入る」ことを、始めやカニ歩きの途中でモデルを示す。（カニ歩き） ・水の抵抗を感じることもできるような教師につかまらずに、体を傾かせる。 ・教師が「床に向かって手を伸ばす」を始めやワニ歩きの途中でモデルを示す。（ワニ歩き）
～休憩～（3分）				
6水中サーキット	・児童の主体的な姿を引き出せるよう、各コーナー	・各コーナーの教師が意欲的に声掛けをする。	・好きな遊具を見つけ自分から取り組む	

(2) 配置図



7 本時の評価基準

氏名	対象児A	対象児B	対象児C
観点			
知識及び技能	・カニ歩きでは、しゃがみながら横向きに2m進むことができる。	・ワニ歩きは、時折休みながらも、手を床に付き足を浮かせて、最後までいくことができる。	・ワニ歩きの最初や途中で手を床に向かって伸ばすことができる。
思考力・判断力・表現力等	・サーキットの各コーナーに最低一回ずつは取り組むことができる。	・サーキットで、自分で3カ所取り組むことができる。	・サーキットで、自分から好きな道具に取り組むことができる。
主体的に学習に取り組む態度	・自分から好きなサーキットのコーナーに向かうことができる。	・大プールは自分なりに浮力を楽しもうとする。	・教師を呼んで自分からプールに入り、運動に取り組もうとする。

		記入者	担任
1 全体について			
学部	学年	単元名	授業者
小	1~3	プールでいろいろな運動をしよう	高橋 佑果
単元の目標	ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現等	ウ 主体的に学習に取り組む態度
	水に慣れ、水中で歩く、走る、しゃがむ、深く、もぞるなどの運動(水遊び)をすることができる。		
2 対象児童について			
単元に関する児童の実態		2年	名前 対象児B
(第1次より) ア水中での動きに不慣れなため体の動きがよりぎこちなくなってしまうことが多い。 イ教師の簡単な動きを、部分的にまねたり自分のやり方でできない水しぶきが苦手だが、プール学習は好んでいる。			
3 単元の指導計画と主たる学び			
単元の目標	ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現等	ウ 主体的に学習に取り組む態度
	①水の掛け合いができる。 ②ワニ歩きができる。 ③トンネルをくぐることができる。 ④大プールでビート板を自分なりに使ってジャンプしながら前に進む。		
時数	目標	学習内容	手立て・支援 ○：適切▲：改善
1	欠		
2	口を閉じてわに歩きができる	ワニ歩き	教師が目の前でおおげさにモデルをする。
	ビート板を両手でつかむことができる	大プールでの活動	両腕をビート板に置くように持つ
	大プールでヘルパーを付けることができる	大プールでの活動	ヘルパーを付けたら大プールに入る。
3	口を閉じてわに歩きができる	ワニ歩き	おおげさなモデルゆっくり
		サーキット	トンネルをくぐり
			口がまだ、空くため途中何度も口に水が入って止まってしまう。
			難しい ▲ 楽しくて気持ちが手にいれない。
			○ できた
			目標が高いので変更 1 浮力を楽しむこと
			○ できた
			継続
			○ できた

	サーキットでトンネルをくぐる		やすい高さにする友達と回ることを促す	特定の友達の様子をよく見ている	
4	ワニ歩きは、ときおり休みながらも手を床につき、足を浮かせ最後まで行くことができる	ワニ歩き	おおげさなモデル「手べた」	○ できた 繰り返しの中で身に付いている	見本がなくてもいけそう 次は一人でチャレンジ
	自分で3カ所取り組むことができる	サーキット	各箇所の職員の意欲的な声掛け 魅力的な用具	○ できた 意欲的にできている。	
	大プールは自分なりに浮力を楽しむことができる。	大プール遊び	場所を決め、自由に運動することで意欲を高める ビート板を自由に使う	○ できた 「寝たい」(背中)で浮きたいの意欲」とお話ししている。	背浮きにチャレンジする。
5	天候不良のため中止				
6	大プールでビート板を使ってジャンプしながら前に進む。	大プール遊び	「びよんびよん」と声掛ける。	○ 「びよんびよん」が分かりやすく、ジャンプしながら前に進むことができた。	
	終わりの合図で終わることができる。	サーキット 大プール遊び	「終わりだね」と声掛ける。 周囲を見るように促す。	○ 周囲を見て終わりを察することができた。	
4 対象児童に対する単元の目標は達成できたか。					
知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
①達成 ②達成 ③達成 ④達成		①達成		①達成 ②継続 教師と一緒にルールは促しを受けて守ることができる。今後は合図で自分で守ることを頑張る。	

資料 高一 1 学習指導案

山目校舎小学部なのはな高学団 (第4～6学年) 体育学習指導案

日 時：令和3年10月26日(火) 5校時(13:20～14:10)
場 所：体育館
指導者：及川啓司 (T1)、佐々木真弓 (T2) 久藤美香 (T3)
杉村優花 (T4)、石岡まゆみ (T5)

1 単元名「ボール運動Ⅱ-サッカーをしよう」

2 単元設定の理由

(1) 児童観

なのはな高学団の体育は、4学年3名、5学年4名、6学年3名の計10名で取り組んでいる。体を動かすことが好きで、いろいろな運動に積極的に取り組む児童や、自分のペースで、できる範囲で活動に参加する児童。体を動かすことは苦手だが、教師や友達と一緒にがんばろうとする児童、音や友達の声などに敏感で、集中が持続しない児童など実態は様々である。

児童は、これまでの体育の学習で、サーキット運動Ⅰやボール運動Ⅰ、ブル学習などに取り組んできている。繰り返し学習を積み重ねていくことで、体の動かし方が分かったり、自分の得意な運動を楽しんだり取り組める運動を見つけたりすることができる。また、まとめの時間にみんなの前で発表することで、達成感を感じたり、次時への意欲につながったりする様子が見られる。

ボール運動Ⅰでは、いろいろなボールを動かしたり、投げたり、捕ったり、蹴ったりする活動に取り組んだ。様々な投げ方、蹴り方を練習して、以前よりうまくボールを扱えるようになってきた児童が多くみられた。一方で、自分の好きなように投げたり、相手の様子を見ずに投げしまったり、息を合わせてボールの受け渡しをすることが難しかったりする児童もみられた。

(2) 単元観

特別支援学校学習指導要領では、ボール運動系の領域は、1段階では「ボール遊び」、2、3段階では「ボールを使った運動やゲーム」としている。本単元は2、3段階の目標や内容を基に、友達と二人で力を合わせてボールにシュートするゲームに取り組む。目指す姿は、決められたルールを守りながら、友達と取りやすいボールをパスして、的やゴールに向かってシュートし、ゴールしたことを友達と喜び合える姿である。パスをしてシュートをするという簡単なゲームであるが、なのはな高学団の児童にとっては、初めて経験する学習内容である。単元の前半は、パス練習に十分な時間をかけ、友達が取りやすい蹴り方を考えたり、友達に声を掛けて相手の反応を見てから蹴ったりすることができるように取り組む。また、単元の後半にはシュート練習やシュート発表会をし、シュートを決めて喜んで、練習してきたパスを成功させ、ペアの友達とハイタッチをするなどで喜んで、児童が楽しい、もっとやりたいと思える活動ができるようにしたい。

(3) 指導観

ボール運動Ⅰの時にパスをしたペアで引き続き取り組み、慣れた相手と次のステップに進めるようにする。児童の主体的な姿を引き出すように、以下の4点に留意して指導に当たりたい。

- ①上手なボールの蹴り方を、教師の手本を見せて、ポイントをわかりやすい言葉やイラストで示す。
- ②友達がボールを足で止めやすいようにするにはどうすれば良いか、良い例、悪い例を提示し、児童が気付けるようにする。
- ③シュート練習では、透明板で取り組んだ「蹴り上げの修行」で慣れたゴールを準備し、的を狙いやすいようにする。また、シュート発表会では、透明板の役に扮し、的を「鬼滅の刃」のキャラクターにして、気持ちを盛り上げて、意欲的にできるようにする。
- ④毎時間のまとめで、頑張っている児童やうまくできているペアなどをMVPとして選び、みんなの前で発表する時間を設け、達成感を感じたり、次時への意欲につながりできるようにする。児童一人ひとりの実態に合わせて、児童が自分の力を高められるよう支援すること、友達と一緒に活動する楽しさを味わえるように、声掛けや楽しい雰囲気作りをすることを意識しながら指導に当たりたい。

3 単元の目標 (年間指導計画より)

- (1) 知識及び技能
 - ・ゴールに向かって、ボールを蹴ることができる。
- (2) 思考力・判断力・表現力等
 - ・友達がボールを受けやすいようにパスをしようとする。
- (3) 主体的に学習に取り組む態度
 - ・ルールを守って友達と楽しく取り組もうとしている。

4 単元の評価規準

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学習に取り組む態度
① ボールをインサイドキックで蹴ることができる。	① 教師や友達の様子を見て、部分的にまねたり、自分のやり方で取り組んでいる。	① ボール運動に進んで取り組もうとしている。
② 友達からのパスを足で止めることができる。	② パス練習でボールを取りに行く際に、友達がぶつかからないよう行動している。	② ボールの扱いやパスの仕方を守ろうとしている。
③ ゴールや対象物を狙ってボールを蹴ることができる。	③ 友達に向かって受けやすいパスをすることができる。	③ 友達と協力してシュートを決めようとしている。

5 題材計画と評価の計画

次	日時	主な学習活動	知・技	思・判・表	主体的
	10月13日(火)		①	①	
	10月15日(金)	ラジオ体操、パス練習	① ②	① ②	①
	10月20日(日)	ラジオ体操、パス練習、シュート練習	② ③	② ③	
	10月22日(火)	ラジオ体操、パスシュート練習		③	②
	10月26日(火)	ラジオ体操、パスシュート発表会		③	③
	本時				

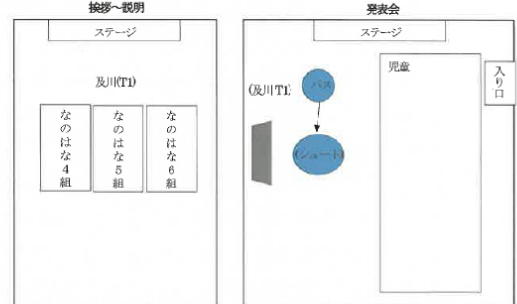
6 本時案 (第5時)

- (1) 本時の目標
 - ア：ゴールや対象物を狙ってボールを蹴ることができる。
 - イ：友達に向かって受けやすいパスをすることができる。
 - ウ：友達と協力してシュートを決めようとしている。

(2) 本時の展開

学習活動	全体への指導支援及び配慮事項	対象児		
		A	B	C
1挨拶 ラジオ体操 (7分)	・T1、当番に注目できるように児童に声掛けをする。	・体育の約束カードを見るように促す。	・挨拶する友達を注目できるように、周りの児童を称賛し、注目することができたら、称賛する。	・声掛けしたり、注目する相手を指で指し示したりして注目を使用する。
2説明、準備 (6分)	・足のどの位置で蹴るのかをイラストを使って示す。 ・教師が動きの手本を示す。 ・衣装を着て気持ちを高める。 ・発表する順番や役割が視覚的に分かりやすいように、表と裏写真を用いて進行する。 ・立つ位置にポイントシートを置く。 ポイントシートには、掛け声や動きがわかるように、イラストをはっておく。	・蹴る位置を認識できるように、靴にシールをはる。 ・気持ちが高まるような声掛けをしながら、衣装を直す。 ・約束カードの裏に順番を書き、手元でも確認できるようにする。	・教師の手本を見ていたら、「目合ってるね」と目えみ返す。(手本する杉村) ・意欲を高められるように、衣装を着た「かっこいいね」と声を掛ける。	・教師の手本を見るように促す。 ・衣装を着た友達が順番を見ながら、気持ちを高めるようにする。
3パスシュート(発表会) (3.0分)	・ゴールにイラストや対象物を置く。 ・発表するペアが前に出てくるように促す。 ・ゴールを決めたペアに対して称賛の声掛けをする。 ・1回目が終わったら待機場所に戻るよう促す。 ・ゴールを決めたときに、表に花丸シールを張り称賛する。	・パスからシュートの流れは、ペアのやりとりを見守りながら、待つ姿勢などを声掛ける。 ・パスやゴールを決めたことを称賛し、一緒に喜び合う。	・立つ位置を確認してきた際は Good ポーズで合図をする。 ・パスやシュートの際は、「いっね」など声を掛け自信がもてるようにする。 ・友達と気持ちよく喜び合えるように、「やったね!」と大きな声で盛り上げる。 ・自信がもてるように、発表後は「インサイドでできたね」や「綺麗に蹴れたね」など声を掛ける。 ・自分でも振り返られるように「今日どうだった?上手くできた?」など聞き、上手くできたことを一緒に喜び合う。	・他のペアの発表を一緒に見ながら、自分の順番が来ることへの期待感を高めるようにする。 ・どの対象物を狙いたいか聞いて気持ちを高める。 ・他のペアの発表を一緒に見ながら、パスやシュートができたとき、一緒に拍手したり、喜び合ったり気持ちを高める。
4振り返り 挨拶 (2分)	・上手になっていたことを称賛する。	・上手にできたことを一緒に喜び合う。	・上手にできたことを、一緒に喜び合う。	

(3) 配置図



7 本時の評価基準

氏名	対象児A	対象児B	対象児C
観点			
知識及び技能	・ゴールをねらって蹴ることができる。	・ゴールをねらって蹴ることができる。	・ゴールをねらって蹴ることができる。
思考力・判断力・表現力等	・友達が受けやすいボールを考えて、蹴ろうとする。	・ペアの友達を見て、友達が取りやすいボールを考えて、蹴ろうとする。	・強い力でボールを蹴り、友達にパスをすることができると。 ・友達からのパスを、足で止めようとする。 ・足で止めたボールを、ゴールに蹴り入れることができる。
主体的に学習に取り組む態度	・きまりを守りながら、ボール運動に進んで取り組もうとする。 ・友達と協力してシュートを決めるとき、友達と喜び合っている。	・ペアを組んでいる友達に聞こえる大きさの声で声掛けをし、協力してシュートを決めようとしている。 ・パスやシュートが決まったあとに友達と喜び合っている。	・パスを出け友達に、自分から声を掛けようとした声掛けをすることができると。 ・ゴールを決めたとき、友達とハイタッチするなど喜び合うことができる。

資料 高一2 個人シート

記入者 【 担任 】					
1 全体について					
学部	学年	単元名		授業者	
小	4～6	ボール運動Ⅱ～サッカーをしよう～		及川 信司	
単元の目標					
ア 知識及び技能		イ 思考力、判断力、表現等		ウ 主体的に学習に取り組む態度	
ゴールに向かって、ボールを蹴ることができる。		友達がボールを受けやすいようにパスをしようとする。		ルールを守って友達と楽しく取り組もうとしている。	
2 対象児童について					
		5年	名前	対象児B	
単元に関する児童の実態					
ア 身体の動きはぎこちないが、教師の手本を見て、ボールを両手で蹴がしたり、利き手や足で投げたり蹴ったりしようとする。					
イ 教師の声掛けを聞いたり、手本を見たりすると背中合わせになっている相手にボールを蹴ることができる。					
ウ 友達の前で発表することは恥ずかしく自分から発表しようとはしないが、称賛されると喜びを表情や身体の動きで表す。					
3 単元の指導計画と主たる学び					
ア 知識及び技能		イ 思考力、判断力、表現等		ウ 主体的に学習に取り組む態度	
①教師の手本を見て、インサイドでボールを蹴ることができる。		①教師や友達をまねしたり、自分のやり方で取り組もうとしている。		①準備やパス練習の際に、自分からボールを取りに行こうとする。	
②友達からのパスを足の内側で蹴り、足の裏側で止めることができる。		②転がったボールを取りに行く際に、ペアを組んでいる友達以外の友達の様子をみようとしている。		②リッカーボールの扱い方やパスの仕方を守ろうとしている。	
③2メートル離れたゴールを見てから、ゴールの方向にボールを蹴ることができる。		③友達が取りやすいスピードでボールを蹴ることができる。		③ペアを組んでいる友達に対して掛け声を発し、協力してシュートを決めようとしている。	
※1練習目で蹴ることができたため、目標を上げた。					
※「準備や」は教師の指示があるため、取り消す。					
時数	目標	学習内容	手立て・支援 ○：適切 ▲：改善	評価	手立て・支援の改善案
1	ボールを蹴ることができる。(ア①) 教師の手本を見てまねすることができる。(イ①) 教師のアドバイスを聞いてペアの友達に掛け声を発しようとする。(ウ②)	ペアになってパス練習	蹴ることができた称賛する。 手本を示す教師がわかるように指さす。 「いくよ」と掛け声を発するように伝える。	○ ボールを蹴ることができた。 ○ 教師の手本を見て、ボールを当てる足の位置を見て蹴ることができた。 ▲ 教師の声掛けを聞いて声の大きさも変えて「いくよ」ということができ	○ 声の大きさを声掛けの表現を教師が手本を示す。

2	教師の手本を見て、インサイドで蹴ることができる。(ア①) またボールを足で止めることができる。(ア②) 準備やパス練習の際に自分からボールを取りに行くことができる。(ウ③) ※「準備や」は教師の指示があるため、取り消す。	ペアになってパス練習	教師が手本を示す。 足で止めることができたときに称賛する。 自分からボールを取りに行った際に称賛する。	○ 足の位置を教師に確認しながら蹴ることができる。 ○ ボールを見て、止めることができた。 ▲ 転がったボールを自分から取りに行くことができた。 ○ できた。	○ 取りに行った際に声を掛けられることができなかった。声掛けのタイミング工夫する。
3	パスを足の内側で蹴り、足の裏側で止めることができる。(ア②) ペア以外の友達のことを見ている。(イ②) 友達が取りやすいボールを蹴ろうとしている。(イ③) 対象物を狙ってシュートすることができる。(ア③)	ペアになってパス練習	教師が手本を示す。 靴のイラストを提示する。 周りの様子を見て行動しているときは称賛する。 「優しく蹴ると取りやすいね」など声を掛ける。 シュート練習	○ できた。 ○ 転がったボールを取りに行くときには、周りの友達を気にしながら取りに行くことができていた。 ○ 優しく蹴ることができていた。教師の手本を見て、「強いよー」など話していた。 ○ できた。MVPに選ばれ、嬉しそうだった。	

4	友達に声を掛け、パスやシュートすることができる。(イ③) ままを守ってボール運動しようとする。(ウ②)	パスからシュート練習	友達に聞こえる声で声を掛けることができたときに「いいね」と称賛する。 ボールを優しく蹴っていたり、活きの聴き方が良いときに「かっこいいね」「イケメンだね」と声を掛ける。	○ 声を掛けることができた。 ○ 教師の話聞いて行動することができた。	
5	友達に声を掛け、取りやすいスピードでパスをしようとする。(イ③) ペアの友達と協力してシュートし、喜び合う。(ウ③)	パスからのシュート発表会	リラックスしていつもと同じようにボールを蹴ることができるよう、「いけるよ」「いけっけっ」など、声を掛ける。 友達と気持ちよく喜び合えるように、「やったね！」と大きな声で盛り上げる。	○ 他の先生や友達が見ていて緊張していたが、いつもと同じ声の大きさで声を掛け、優しく取りやすいスピードで蹴ることができた。 ○ パスやシュートしたあとに喜び合っていた。	
4 対象児童に対する単元の目標は達成できたか。					
知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
達成 身体の動かし方はまだまだぎこちない部分があるが、今の発達段階を踏まえると、満足できる。		達成 教師の言ったボールが速いということに気づき、自分が蹴るボールのスピードを工夫する様子がみられた。		達成 他のクラスの友達へ声を掛け、パスからのシュートが決まったあとは、笑顔で喜び合う姿がみられた。	

